

第 5 学年 体育科学習指導案

授業者の主張

技のコツを知るための動きの比較と、技のできばえを判断するための場作りによって、児童の意欲と技能の向上を図ることができる。

1 単元名 マット運動 「自分の回転はどんな回転？」

2 単元の目標

- 側方倒立回転を中核にし、できる技を組み合わせで演技することができる。(運動の技能)
- 技が連続してできるように、進んで練習することができる。(運動への関心・意欲・態度)
- よい動きと悪い動きを比較し、よい動きのポイントに気付くことができる。(運動への思考・判断)

3 単元の評価規準

- 側方倒立回転を中核にし、できる技を組み合わせで演技している。(運動の技能)
- 技が連続してできるように、繰り返し練習している。(運動への関心・意欲・態度)
- よい動きと悪い動きを比較し、よい動きのポイントに気付いている。(運動への思考・判断)

4 単元と児童

(1) 一般的な特性

マット運動は、回転などの非日常的な運動、空間における逆位などを通して、身体能力を高めるねらいをもち、自己の能力に適した技に挑み、技の達成やできばえに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

(2) 児童の実態

① 技能

前転、後転、開脚前転、開脚後転などは比較的よくできる。(実際の人数は削除)。しかし中には、腕支持が弱く真っすぐ回転できなかったり、安定した壁倒立ができなかったりする子どももいる。

② 態度

運動に対しては意欲的に取り組む子どもが多いが、マット運動では、未経験の動きに対する不安があるため、「嫌い」と答える子が半数位いる。

③ 思考・判断

技のできばえを判断する基準があいまいであり、自他の技を比較的高く評価する傾向がある。

(3) (1)と(2)を踏まえた手立て

① 技能・態度への手立て

技能・態度の実態は、腕支持感覚や逆さ感覚等の基礎感覚が乏しいことが原因であると考えられる。そこで、単元を通して腕支持・逆さの基礎感覚づくりを十分行っていく。

② 思考・判断への手立て

思考・判断の実態は、技のよい動きのイメージや判断基準が十分もてないことが原因であると考えられる。そこで、まず、モデルにより技のよい動きのイメージをもたせる。次に、技のできばえをゴムひもやダンボール、ケンステップなどの用具を活用し、視覚・触覚などで判断できるようにする。

5 指導計画 全8時間(本時4/8)

	主な活動	教師の手立て	
		指導内容	考えさせる内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・指導上の注意事項 ・基礎感覚づくり(準備運動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらい, 道すじ ・安全面について ・補助のさせ方, 声かけの仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたい技や自分の目標づくり
2	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎感覚づくり ・よい動きと悪い動きの比較 ・前転・後転など, できる回り方で回る。(めあて1) ・技の組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・場作り, 練習の仕方, 友達の動きの見方 ・技のつなぎ ・技のできばえを判断できる場の作り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい動きと悪い動きの比較による, 技のコツ
3	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎感覚づくり ・めあて1 ・発展技に挑戦 開脚前転, 開脚後転(めあて2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助の仕方 ・友達とのかかわり方 ・技のできばえを判断できる場の作り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい動きと悪い動きの比較による, 技のコツ
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎感覚づくり ・側方倒立回転①(本時) ・よい動きと悪い動きの比較 ・手足の着き方を知る ・用具を使って, 技のできばえを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・手足の着く順序 ※2 ・技のできばえを判断するための用具の使い方※3 <p>「※」は本時の展開に関連し記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よい動きと悪い動きの比較による, 技のコツ ※1 ・技のできばえを判断する場作り ※4
5	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎感覚づくり ・側方倒立回転② ・正しい手の着き方 ・足を伸ばす ・腰を伸ばす 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価の仕方とできばえの基準 	<ul style="list-style-type: none"> ・技のできばえが判断できる場の作り方 ・モデルの動きから正しい手の着き方
6	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎感覚づくり ・側方倒立回転③ ・側方倒立回転を含む技の組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展技(できる子どもに対してのみ) ・側方倒立回転を含めた技の組み合わせ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな側方倒立回転になるための, 用具の使い方
7	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎感覚づくり ・めあて1, めあて2 ・組み合わせ技 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の組み合わせによる発表の仕方(側方倒立回転を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会に向けた演技の構成
8	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の演技のよさ見方 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の演技のよさ

6 本時の指導（本時4／8）

(1) 本時のねらい

- 足―手―手―足の正しい順序で手足を着き、側方倒立回転ができる。（運動の技能）
- 繰り返し側方倒立回転の練習をしている。（運動に対する態度）
- よいモデルと教師の側方倒立回転を見比べ、側方倒立回転は、一直線上を通ることがよい動きであることが分かる。（運動への思考・判断）

(2) 本時で身に付けさせたい力と手立て

- ① 本時で身に付けさせたい力（運動技能）
- ・ 足―手―手―足の正しい順序で手足を着き、側方倒立回転ができる。

② 身に付けさせるための手立て

【技のイメージのもたせ方】

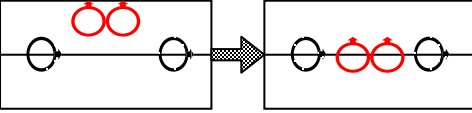
- ・ 側方倒立回転のよい動きと悪い動きを比較させながら見せ、動きのイメージをもたせる。特に、上方から撮影された技を見せ、よい動きは手足が一直線上を通っていることを確認させる。

【技のできばえを判断するための場作り】

- ・ 手足の着く順序を身に付けるために、マット上にケンステップを台形の形に置いてその中に手足を着かせる。手足を着く位置を台形から直線にしていくことで、側方倒立回転のできばえの判断ができるようにする。
- ・ 一直線上に手足を着いて回れる児童に対して、ダンボールを使用し、接触の有無により足や腰の伸びた動きができていないかを判断できるようにする。

(3) 本時の展開

時間 (分)	学習活動	子どもの動きと思考	・手だて ☆留意点 ◎評価
5	準備運動	・ 基礎感覚となる準備運動を行う。	・ グループごとに、基礎感覚づくりの準備運動を行う。（かえる足打ち、壁登り、壁倒立、川跳びなど）
5	T1 今できる力で側転を試してみましょう。	・ 試しに側方倒立回転を試してみる。	☆よい動きをしている児童を見取る。
7	T2 友達と先生の側方倒立回転も見て、どこが違うか考えながら見なさい。 ※1 ・ 腕を見なさい。 ・ 足を見なさい。 ・ 視線を見なさい。	C1 A君は動きが大きい。 C2 腕を伸ばしている。 C3 先生は腰が曲がっている。 C4 足を伸ばしている。 C5 目は、マットを見ている。	・ よい動きをしていたモデルの子と教師の側方倒立回転を見せる。 ☆教師は悪いモデルを示す。 ☆違いが子どもから出てこなかった場合、足、目線などの視点を与えてから、悪い動きを再度見せる。 ◎よい動きと悪い動きを比べることができたか。
	T3 ビデオを見て大切なところを考えましょう。	C6 一直線上に手足をついている。 C7 一直線上に手足をついて側方倒立回転ができるといいんだ。	・ 上方から撮影された側方倒立回転の映像では、手足の着き方が、一直線上のものと台形のものを見せ、技のよいイメージをもたせる。

23	<p>T4 最初は、手足を順序よく着いて回れるようにケンステップを置いて練習しましょう。※2できる人は、どんどん台形を直線にしていきましょう。</p>	<p>C8 ケンステップの中に手足を着いて練習するぞ。 C9 ケンステップを台形から直線にしていくといいんだ。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 手足の着き方については指導する。 • ケンステップで台形をつくり、順序よく手足が着けるようにする。 • ケンステップを徐々に一直線上に近づけていく。 <p>☆机間巡視により、ケンステップの置き方、手足の入れ方を指導する。</p> <p>◎手足を順序よくケンステップの中に入れて練習できているか。</p>
	<p>T5 一直線上にできる子が増えてきました。その子の動きをみんなで見てください。また、大きな側方倒立回転になるようにダンボールを使って練習しましょう。※3</p>	<p>C10 一直線上でできているぞ。 C11 ダンボールを使って、側方倒立回転するぞ。 C12 ダンボールに触れないように側方倒立回転をするといいんだ。</p>	<p>☆直線に手足を着くことが見やすい場所で示範を見させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 直線上にできている子のみ、ダンボールを使用した場での練習に取り組ませる。
	再度練習	<ul style="list-style-type: none"> • ケンステップを自分で調整したり、ダンボールを積み重ねたりするなど、自分にあった場を作りながら練習する。※4 	<p>☆自分のできばえに合った練習ができるように助言していく。</p>
5	振り返り	<p>C13 手足の着き方が分かった。 C14 次は、一直線に回れるようにしたい。</p>	<p>◎ 一直線上に回ることなどの動きのイメージや技のコツについての記述があるか。</p>

「※」は、指導計画に関連して記述した「教える内容」及び「考える内容」